

マタイ 28

負うべきものは 主イエスのくびき

マタイ福音書11章1～30節

ヨハネの迷い 重荷を負う人

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. ヨハネの迷い 11:1～14

II. メシアの警告 11:15～24

III. 信者の負うべき軛 11:25～30

IV. まとめと適用

負うべきものは

主イエスのくびき



ガリラヤの丘陵地



0. イントロダクション

カペナウムの再現図



最初の人、アダムは、
蛇(サタン)にそそのかされ、
神との約束を破り、
禁じられていた実を食べた。

神との約束を破った = **罪**
罪を犯した瞬間、
人は**神から断絶**された(= **死**)

神は、蛇を裁くと同時に、
罪からの解放者である、
キリストの到来を予告された。

最初のメシア預言 創世記3:15

■ 原福音

「わたしは敵意を、**おまえ**と女の間、
おまえの子孫と**女の子孫**の間に置く。
彼は**おまえ**の頭を打ち、**おまえ**は**彼**の
かかとを打つ。」

■ **女の子孫** …処女から誕生するメシア
メシア(キリストは)は、命を犠牲にし、
悪魔に勝利、人類を罪から解放される。



罪と罪の贖いのジレンマ

- 罪を贖うには、血が必要。
人の罪を贖うには、人の血が必要。
- アダム以降、人は皆、神から断絶。
罪のない、きよい人などいない。
→ 犠牲の動物の血は、応急措置
- 罪なき人が、血を流すしかない。
→ 女の子孫・メシア(キリスト)



アブラハムとの神の契約

- 大洪水、バベルの塔…、
人類は罪を重ね、混迷は深まるばかり。
- 神がいよいよ開始された人類救済計画。
アブラハムという一人の人から、
一つの民族・イスラエルを育まれ、
その子孫から**メシア**を誕生させること。

**「地上の氏族はすべて あなたによって
祝福に入る。創世記12章3節」**



イスラエルの苦難の歴史

- 約束の地で繁栄したイスラエルだが、偶像礼拝を重ねた末に、王国は滅亡。
- 滅亡に向かう暗黒の時代に、神は、イスラエルに預言者たちを送り、メシアによる神の国の到来を告げた。
- 大国に蹂躪され続けた数百年を経て、ついに、メシアの時代が到来した!!



メシアの先駆者ヨハネ

- メシアの先駆者が、洗礼者ヨハネ。
- メシアの登場に備え、神の前に、悔い改めるようイスラエルに告げた。

「悔い改めなさい。
天の御国が近づいたから」



ついにメシアは現れ、活動を開始された!!

罪で壊れた世界は、メシアによって回復にされる

天地創造

人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活



世界の回復
(完全な神の国)

キリストの再臨

今の時代(教会時代)

ゴールは、世界の回復、完全な永遠の「神の国」

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

ベルゼブル論争

安息日(律法解釈)論争

メシア的奇跡

宣教開始

弟子の召命

荒野の誘惑

バプテスマ

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落





I. ヨハネの迷い

マタイ福音書11章1～14節

マカイロス要塞跡

本編 ヨハネの迷い マタイ11:1～3

イエスは十二弟子に対する指示を終えると、町々で教え、宣べ伝えるために、そこを立ち去られた。

さて、牢獄で*キリストのみわざについて聞いたヨハネは、自分の弟子たちを通じてイエスにこう言い送った。「**おいでになるはずの方**はあなたですか*。それとも、別の方を待つべきでしょうか。」

*領主ヘロデの不貞を指摘し、獄中に。

*イエスは本当に**メシア**なのか？



本編 メシアの宣言 マタイ11:4～6

イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。

目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています*。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

*メシア預言 …イザヤ35:5～6、61:1

イエスは、数々の奇跡と教えで、預言されたメシアだと証明!!



本編

ヨハネとは？ マタイ11:7

この人たちが行ってしまうと、イエスはヨハネについて群衆に話し始められた。「あなたがたは何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。

そうでなければ、何を見に行ったのですか。柔らかな衣をまとった人ですか。ご覧なさい。柔らかな衣を着た人なら王の宮殿にいます。」

■ 洗礼者ヨハネは、何者なのか？

人々にたずね、確認させるイエス。



本編 先遣者 マタイ11:9～10

「そうでなければ、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そうです。わたしはあなたがたに言います。預言者よりもすぐれた者を見に行ったのです。」

この人こそ、『見よ、わたしは**わたしの使い**を**あなた**の前に遣わす。**彼は、あなたの前にあなたの道を備える***』と書かれているその人です。」

＊**あなた**＝メシア マラキ3:1

■ヨハネは、歴代の預言者以上の**先遣者**

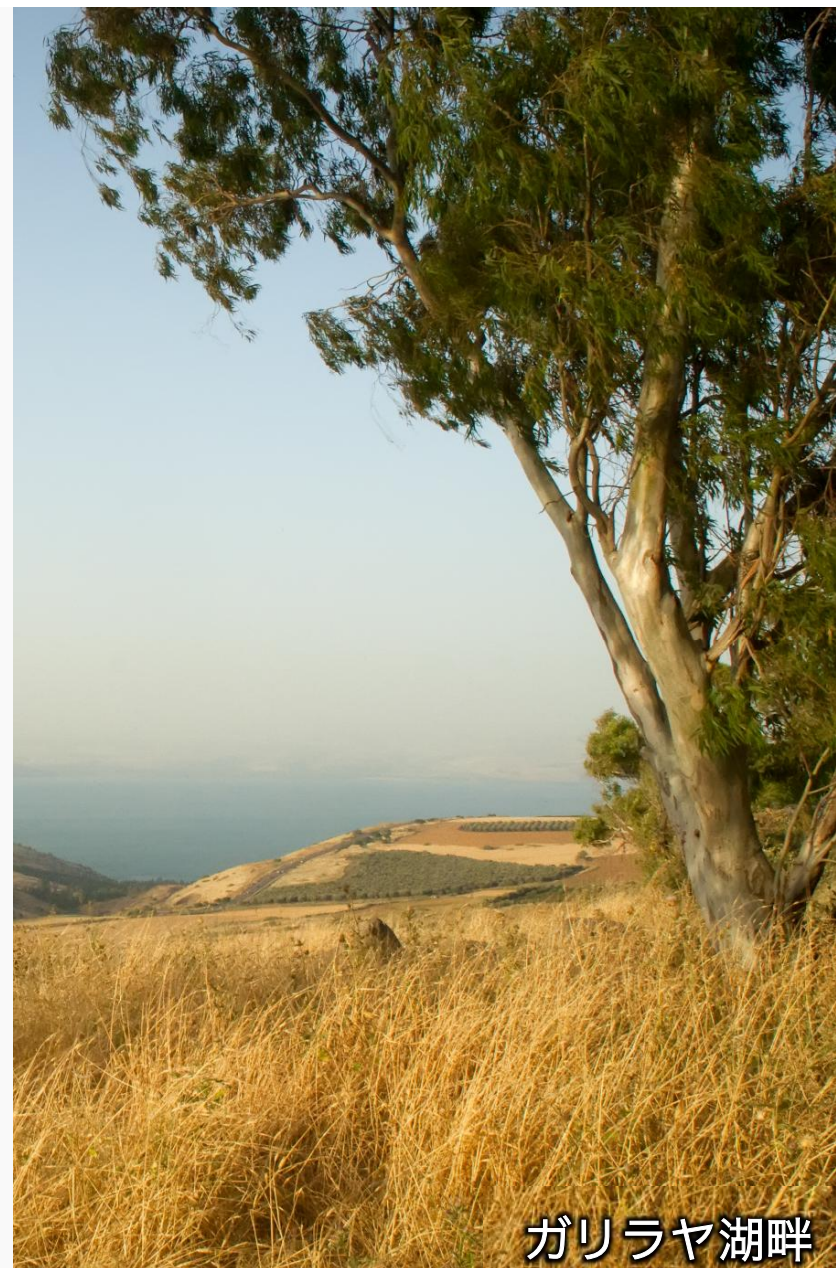


本編 神の御国の民 マタイ11:11

「まことに、あなたがたに言います。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより偉大な者は現れませんでした*。しかし、天の御国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。」

＊地上で生きた人の中では最高の信仰者。

＊主イエスが建てられる神の王国の国民は、栄光の体を与えられた永遠の存在。



ガリラヤ湖畔

本編 御国をめぐる戦い マタイ11:12

バプテスマのヨハネの日から今に至るまで、
天の御国は激しく攻められています*。そ
して、激しく攻める者たちがそれを奪い
取っています*。

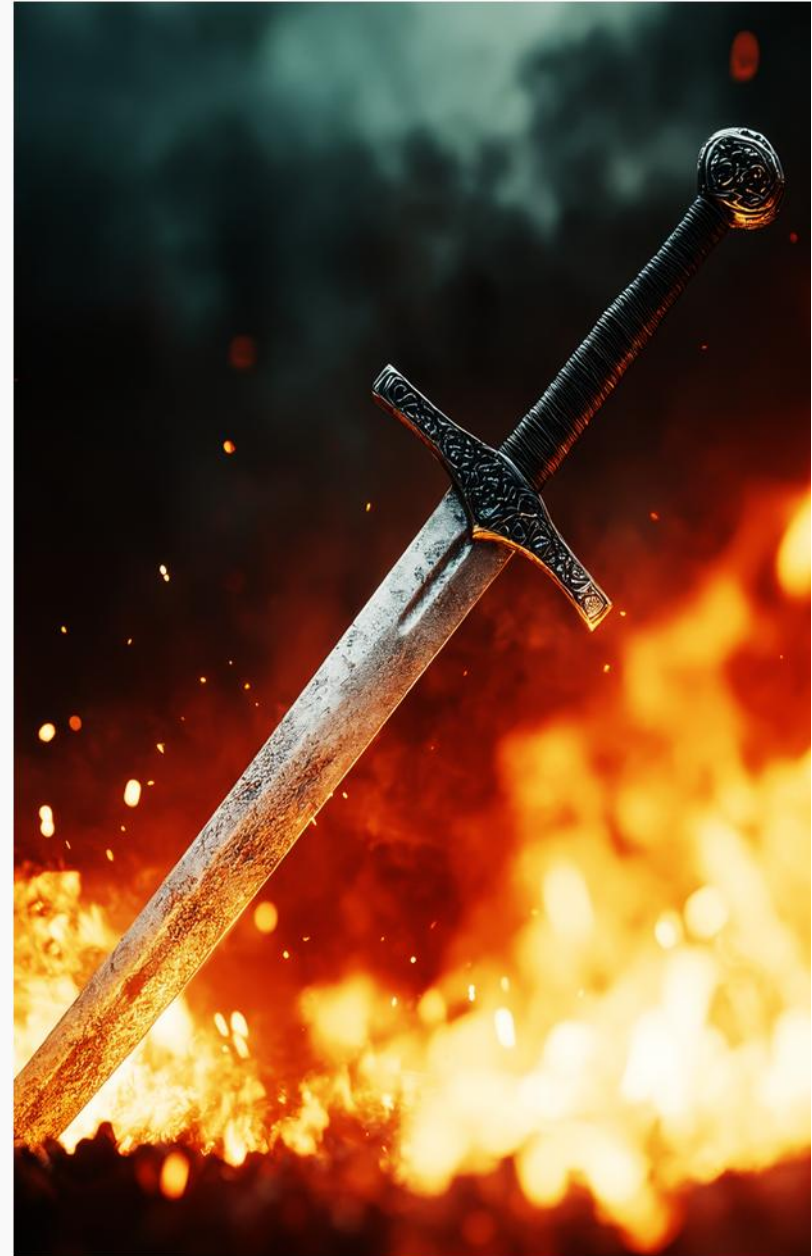
*地上における天の国 = メシアを信じる者

*メシアを信じないように妨害されている

■ 敵対者のイエスへの攻撃は激化。

メシアを離れる者も多くいた(ヨハ6:66)

➡ 公式な拒絶が、ベルゼブル論争



本編

エリヤ マタイ11:13~14

すべての預言者たちと律法*が預言したのは、ヨハネの時まででした。

あなたがたに受け入れる思いがあるなら、この人こそ来たるべきエリヤ*なのです。

＊教会時代は、隠された奥義

＊生きたまま天に挙げられたエリヤは、
メシア到来の前に来るとされていた。

「見よ。わたしは、【主】の大きいなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。マラキ4:5」





Ⅱ．時代へのメシアの警告

マタイ福音書10章15～24節

コラジン

本編

呼びかけ マタイ11:15～17

耳のある者は聞きなさい。

この時代は何にたとえたらよいでしょうか。
広場に座って、ほかの子どもたちにこう呼びかけている子どもたちのようです。

『笛を吹いてあげたのに君たちは踊らなかった*。弔いの歌を歌ってあげたのに胸をたたいて悲しまなかった*。』

＊結婚式遊び ＊葬式遊び

■遊びに誘う、呼びかけの文句・歌

➡メシアがイスラエルに呼びかけている



本編 人々の中傷 マタイ11:18~19

「ヨハネが来て、食べもせず飲みもしないでいると、『この人は悪霊につかれている』と人々は言い、

人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言うのです。しかし、知恵が正しいことはその行いが証明します。」

■ヨハネは、断食と悔い改めを促し、
イスラエルの花婿であるメシアは、
祝宴をあげるが、
敵対する人々は、どちらも拒絶する



本編 背教の町々 マタイ11:20～21

それからイエスは、ご自分が力あるわざを数多く行った町々を責め始められた。彼らが悔い改めなかったからである。

「ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ*。
おまえたちの間で行われた力あるわざが、
ツロとシドン*で行われていたら、彼らは
とうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔
い改めていたことだろう。」

＊ガリラヤにあった町。廃墟が残る。

＊現レバノン、シリア…異邦人の町



コラジン

本編 カペナウム マタイ11:22～23

「おまえたちに言う。さばきの日には、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。」

カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。おまえのうちで行われた力あるわざがソドムで行われていたら、ソドムは今日まで残っていたことだろう。」

■ イエスの拠点だったカペナウムだが…、
硫黄の火で滅ぼされたソドム以上の罪が。



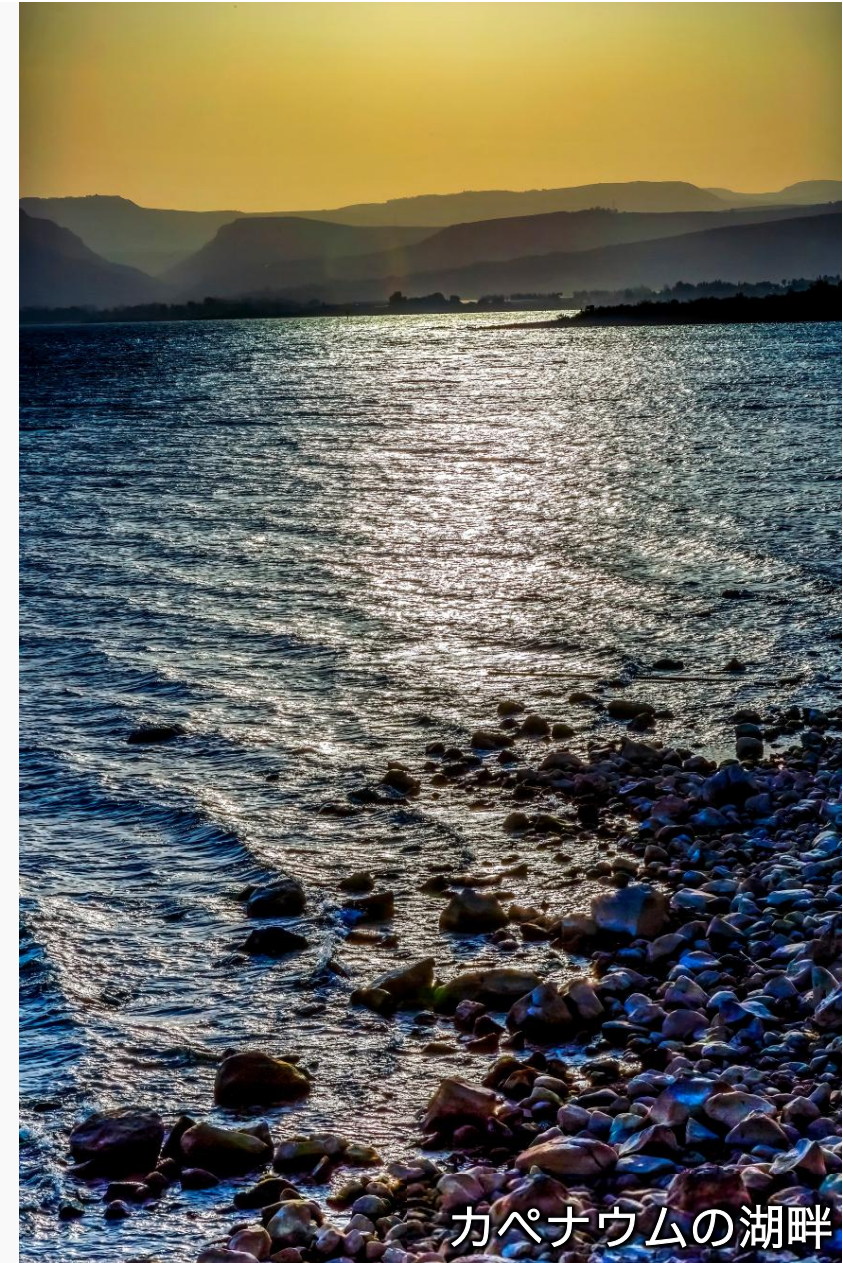
目の前のメシアを
拒んだ罪の大きさ

カペナウム

本編 ソドムよりも マタイ11:24

「おまえたちに言う。さばきの日には、ソドムの地のほうが、おまえよりもさばきに耐えやすいのだ。」

- イスラエルに敵対してきたツロ、シドン、墮落の極みで神に裁かれたソドムより、メシアを拒んだイスラエルの罪は重い。
- コラジン、ベトサイダ、カペナウム、いずれも、今は廃墟の遺跡が残るだけ。



カペナウムの湖畔



Ⅲ. 信仰者の負うべきくびき

マタイ福音書11章20～30節

ガリラヤ湖畔

本編 主の御心 マタイ11:25～26

そのとき、イエスはこう言われた。

「天地の主であられる父よ*、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者*には隠して、幼子たち*に現してくださいました。」

そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。」

*イエスの父。個人的呼びかけは初。

*宗教的権威。パリサイ派、律法学者

*正規の宗教教育を受けていない弟子たち

イエスの祈りに、弟子たちは驚愕しただろう

ガリラヤ湖畔



本編 子なるキリスト マタイ11:27

「すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子*を知っている者はなく、子と、子が父を現そうと心に定めた者*のほかに、父を知っている者はだれもいません。」

*神のひとり子。子なる神、キリスト

*人々を救いに導かれるのは、
主イエス・キリストの御業



人々の罪をゆるし、救う権威は、主イエス・キリストにある

本編

重荷を負う者 マタイ11:28

すべて疲れた人、重荷を負っている人*は
わたしのもとに来なさい。わたしがあなた
がたを休ませてあげます。

＊パリサイ派、律法学者が負わせた、
人が付け加えた教え(＝口伝律法)の重荷
➡この時代のイスラエルの罪の極み

「また彼らは、重くて負いきれない荷を束
ねて人々の肩に載せるが、それを動かすの
に自分は指一本貸そうともしません。マタ
23:4 」



本編 安らぎの道 マタイ11:29～30

「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

■ 偽善者たちの負わせる重荷か、
キリストが共に負われる軽いくびきか。

どちらを負うか。二つに一つ





III. まとめと適用

負うべきものは主イエスのくびき

ガリラヤ湖畔

洗礼者ヨハネが迷ったのは？

■ 領主ヘロデの罪を指摘したために、獄中に。

宗教指導者たちのイエスへの態度は、ますます敵対的に。

➡すでに、イエスは悪霊の力で奇跡を行っているという
見解が広がっていた(マタイ10:25)

■ 「なぜイエスは拒絶されるのか？ メシアではないのか？」

これ以上の信仰者はいないと、メシアに言われたヨハネさえ、
心迷ってしまう絶望的な状況に置かれていた。

イエスの応答にこめられた憐れみ

■ イエスは、ヨハネを叱責しなかった。

伝言は、メシア預言の成就を確認させるもの。

➡ ぐらついた信仰を立て直すのは、神の約束の御言葉

■ ヨハネほど、偉大な信仰者はいない。

メシア到来の最後の備えをした、先遣者なのだから。

ヨハネの揺らぎの背後にあるものは？

■ 敵対者の背後に働いているのは、訴える者、サタン(悪魔)。
メシアの奇跡を否定し、**神の国**の実現を全力で妨害。

➡ 先遣者ヨハネが現れた時からすでに戦いは始まっていた

■ **天の御国(神の国)**は、地上においては、信者の群れのこと。

➡ 人々に、イエスがメシアだと信じさせないようにし、
信者たちをイエスから引き離そうと、サタンは画策。

主イエスの十字架の受難まで、戦いは激しさを増していく

メシアを拒んだ町々の末路

■ イエスが宣教の拠点とされたカペナウム。

何度も訪れただろう、コラジン、ベトサイダ。ガリラヤの町々。
しかし、多くの人々は、すでにイエスを拒絶していた。

■ ガリラヤで起こったことは、イスラエル全土でも起こる。

➡ 間もなく、ユダヤ議会は正式にイエスを拒絶

■ イスラエルに約束されたメシアを目の前にして拒絶した、
その罪は、異邦人の町々よりも、あのソドムよりも重い。

残された希望 人々の救いの道は？

■ 漁師や徴税人で、正式な宗教教育も受けていなかった弟子たち。
(しかし、誰よりも熱心に聖書を学び、実践していた)

■ メシアの弟子として、町々に遣わされていた彼らが、希望。
イエスは主に感謝し、ご自身がメシアだと改めて宣言された。

■ イエスは、神を「わたしの父」と呼ばれる、神のひとり子。
人々を救いに導き、あるいは、裁かれるのは、主イエス。

主イエスこそ、救いと裁きの権威を帯びた神の子 メシア

救いと裁きの権威を持ったメシアの呼びかけ

■ 神の律法に人々が付け加えた偽りの教え、**口伝律法の重荷**に、イスラエルの人々は縛り付けられ、苦しんでいた。

■ メシアが呼びかけられたのが、この言葉

「すべて疲れた人、**重荷**を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしの**くびき**を負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

わたしの**くびき**は負いやすく、わたしの**荷**は軽いからです。」

罪の重荷か？ 神のくびきか？

■すべての人は、生まれながら、神と断絶された罪人。

誰に教えられなくとも嘘をつき、心には見せられない罪がある。

■クリスチャンとして歩む → 誰より罪に敏感になっていくこと
例) 三浦綾子「氷点」。誰もが抱える生々しい罪の現実。

■罪の重荷にあえいで生き、最後は永遠の滅びに陥るのか？

主イエスのくびきを負い、永遠のいのちに至るのか？

キリストがもたらす救いの本質

「御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。
ヨハネ3:36」

■ 救いとは、神の怒りからの救い。

救いの道は、ただ一つ。御子イエス・キリストを信じること。

「神の子、主イエス・キリストは、私の罪のため、
十字架で死なれ、葬られ、死を打ち破って復活された」

主イエスを信じるとは？

「あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。ヤコブ2:19」

■ 神が求められる信仰とは、ただの知識や、認識ではない。
行いが伴わない信仰は、死んだもの(ヤコブ2:17)

■ 主イエスを信じるとは、主イエスを愛すること。
愛するとは、心、いのち、知性、すべてを尽くすこと。
神を愛する者は、神に知られ、一つになっている。(1コリ8:3)

★ 主イエスのくびきを負って歩もう ★

■ 弟子たちすら、主イエスの目には「幼子」。私たちはなおさらだ。

■ 幼子である私たちを、愛する子として、主は成長を願われる。
必要なのは、主イエスのくびきを負うこと。主は告げられた。
「自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」と。

■ 「わたしのくびきは負いやすく、荷は軽い」と主は言われた。

主イエスのくびきを負おう。

その時、主が、私を支えてくださっているのだと分かるから。

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください

私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

②墓に葬られ、

③三日目に復活されたこと、を信じます。

私たちは、罪の重荷を捨て、主イエスのくびきを今、負います。

主イエスが、私たちを支え、導き、成長させてくださいます。

私たちは、主を愛し、互いに愛しあいます。

主の愛の福音をもって、私たちを世に遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」